

製品名: MLK2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13953**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MAP3K10
別名	MAP3K10; MLK2; MST; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 10; Mixed lineage kinase 2; Protein kinase MST
遺伝子 ID	4294.0
SwissProt ID	Q02779
免疫原	抗血清はヒト MAP3K10 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 391-440

背景

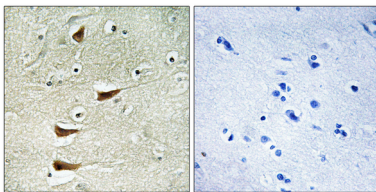
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンキナーゼファミリーのメンバーです。このキナーゼは MAPK8/

JNK および MKK4/SEK1 を活性化することが示されており、このキナーゼ自体もリン酸化され、JNK キナーゼによって活性化されます。このキナーゼは JNK シグナル伝達経路において優先的に機能し、神経成長因子 (NGF) 誘導性のニューロンアポトーシスに関与することが報告されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,補因子: マグネシウム。 ,酵素調節: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体形成は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要である。 ,機能: JUN N 末端経路を活性化する。 ,PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に関与する。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。 ,類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,類似性: 1つの SH3 ドメインを含む。 ,サブユニット: ホモ二量体。 ,組織特異性: 脳および骨格筋に発現する。 ,

研究分野

SAPK_JNK

画像データ



MAP3K10 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。